

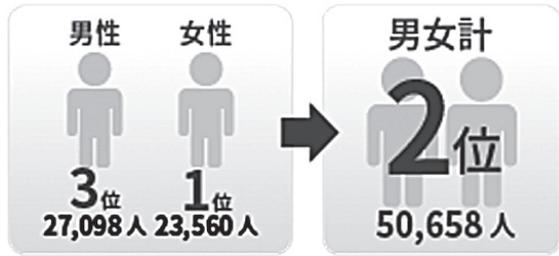
大腸がん検診について

内科医師 山本 健嗣



今年も暑い時期になりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年は大腸がん検診についてお話しします。

大腸がんで亡くなる人の数は？



(表)2018年 大腸がん死亡数(男女別)

出典：厚生労働省 人口動態統計(確定数)の概要

大腸がんについて

日本人が一生のうちにかんと診断される確率は約2人に1人というデータもあり、がんは誰もがかかってしまう可能性があります。2018年の統計では、死因のうちがん(悪性腫瘍)の占める割合は26・5%で、日本は高齢化社会であるため今後この割合は増えていくでしょう。がん死亡数のうち臓器別では大腸癌が2位(表)で、亡くなる人が比較的多いのが現状です。大腸がんになると、便秘や血便、腹痛、便が細くなるなどの自覚症状が現れる場合があります。これらは大腸がんの進行期に多い症状であるため、早期発見のため定期的な検診を受けることがなによりも重要です。

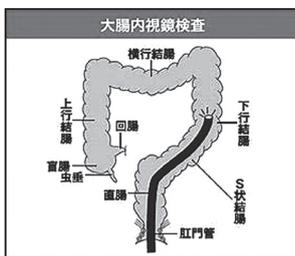
大腸がん検診

大腸がん検診の方法は「便潜血検査」といって、2日分の便を採取し便に混じった血液成分を検出します。便潜血陽性であれば大腸内に出血源

が疑われるため、精密検査の対象になります。大腸がん検診が推奨される年齢は40歳以上の健常者であり、毎年定期的に受診することが推奨されています。便潜血で「異常あり」という結果を受け取った場合は、便潜血検査の再検査は行わずに大腸内視鏡検査を受けてください。

大腸内視鏡検査

精密検査の第一選択は大腸内視鏡検査です。下剤を服用し、大腸を空にした後に内視鏡を肛門から挿入します。直腸から盲腸までのすべての大腸内を観察し、がんやポリープなどの病変の有無を確認する検査です。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか判定を行います。下剤を飲むのが大変であったり、検査に半日



出典：Medick medical photo stock

以上は時間を要するため、内視鏡検査には抵抗があるという声をよく聴きますが、がんの早期発見のため有用であるというのを忘れてはいけません。

最後に

智頭病院は検診で便潜血検査を実施しております。且つ、精密検査の大腸内視鏡検査を実施しており、令和4年度は約70症例の大腸内視鏡検査を実施しました。検診を受けることで、自身のお身体と向き合ってみませんか。何か気になることがありましたら、当院まで相談ください。

